

2024年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等に係る 調査結果

2025年6月
総務省情報流通行政局
情報流通振興課
情報流通適正化推進室

1. 調査概要

2. 調査結果

(1) ILASテスト結果

(2) アンケート結果

① ペアレンタルコントロールの状況

② 学校における取組の状況

③ トラブル遭遇時の対応

④ 生成AIの利用状況

3. 参考

1. 調査概要

○ 背景

総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）やOECDの「オンライン上の子供の保護に関する勧告」（2012年2月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標（ILAS）として開発。

2012年度より高校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテスト（ILASテスト）及びインターネット等の利用状況に関するアンケートを実施。

○ 概要

- ・実施時期：2024年11月～2025年1月
- ・実施対象：全国の高等学校第1学年
- ・実施形式：CBT方式、無記名回答、問題非公開
- ・実施内容：①ILASテスト（全49問） ②インターネット利用状況に関するアンケート
- ・実施委託事業者：株式会社サイバー創研
- ・実施対象校・参加者数：下図のとおり

設立区分		協力人数		平均正答率	
国公立	18校	男性	3,108 人	男性	70.3%
私立	12校	女性	2,098 人	女性	73.4%
		性別無回答	108 人		
計	30校	計	5,314人	全体	71.5%

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）を3大分類・7中分類に分類。

リスク分類		対応能力	リスクの具体例
大分類	中分類		
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	著作権、肖像権、出会い系サイトの利用 等
	1b. 有害情報リスク	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	不適切投稿、炎上、閲覧制限等
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等
	2b. 不適正取引リスク	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる	フィッシング、ネット上の売買等
	2c. 不適切利用リスク	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー 等
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク	プライバシー保護を図り利用できる	プライバシー・個人情報の流出 等
	3b. セキュリティリスク	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる	ID、パスワード、ウイルス 等

2. 調査結果

ILAS等調査 結果概要

(1) ILASテスト結果

- 全体(全49問)の正答率(→p.8)
71.5%(前年度正答率:71.4%)
- リスクの中分類別の正答率(→p.8.9)
「不適切利用リスク(過大消費、ネット依存等)」に対応する問の正答率(79.2%)が最も高く、「不適正取引リスク(フィッシングやネット上の売買等)」に対応する問の正答率(63.1%)が最も低い。
※リスクの中分類別の正答率については、前年度までの正答率とほぼ横ばい。

(2) アンケート結果

- ペアレンタルコントロールの状況(→p.11-13)
 - ・SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の53.4%が「ある」と回答(前年度:33.5%)。「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合、ILASテストの正答率は74.9%と全体の正答率よりも高い。ペアレンタルコントロールの周知啓発を引き続き行うことが重要。
- 学校における取組状況・トラブル遭遇時の対応(→p.14-19)
 - ・学校で教えられた注意点等について、「偽・誤情報(フェイクニュース)」、「ファクトチェック」、「生成AI」の回答率は、前年度よりも増加。「ネットいじめ」や「長時間利用」等の課題に加え、「偽・誤情報(フェイクニュース)」等の新たな課題について学ぶ機会が増加。
 - ・フェイクニュースに遭遇した際の対応について、情報源や他での言及をチェックしたなどの適切な対応をとったとの回答率も前年度より増加。
- 生成AIの利用状況(→p.20)
 - ・生成AIについて、全体の40.1%が「使ったことはない」と回答。用途としては、「文章の作成をするために使用したことがある」との回答が最も多い(35.6%)。
 - ・生成AIのイメージとしては、「学習効率や効果があがる」との回答が最も多い(33.6%)。

(1) ILASテスト結果

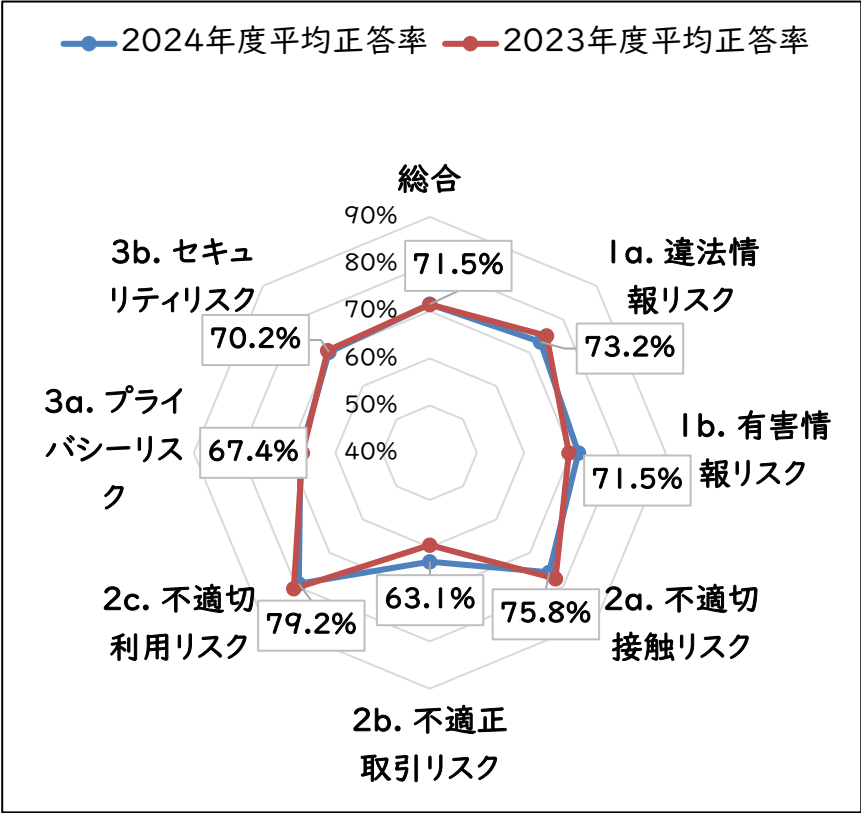
ILASテスト結果

- 全体（全49問）の正答率は、71.5%。（前年度正答率:71.4%）
- リスクの中分類別の正答率については、前年度と同様に「2c. 不適切利用リスク」に対応する問の正答率（79.2%）が最も高く、「2b. 不適正取引リスク」に対応する問の正答率（63.1%）が最も低い。

【図表1-1】リスク中分類ごとの正答率

総 合		71.5%	(前年度 71.4%)
1. 違法有害 情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	73.2%	(前年度 75.0%)
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	71.5%	(前年度 69.5%)
2. 不適正利用 リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	75.8%	(前年度 77.7%)
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	63.1%	(前年度 59.6%)
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	79.2%	(前年度 80.7%)
3. プライバ シー・ セキュリテリ スク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	67.4%	(前年度 67.0%)
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	70.2%	(前年度 70.6%)

【図表1-2】リスク中分類ごとの正答率のレーダーチャート



※上図中の数字は2024年度の数値

ILASテスト結果 -リスク分類別の経年比較-

○ 2024年度においては、前年度までの正答率とほぼ横ばいである。
(2022年度に一部設問の改修を行っているため、2021年度までの結果は参考値として取り扱う。)

リスク分類		具体例	参考値								2022年度 (n=12,250)	2023年度 (n=13,108)	2024年度 (n=5,314)	
			2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	2019年度 (n=7,252)	2020年度 (n=12,499)	2021年度 (n=14,021)	2015~ 2021年 平均				
総合		-	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	72.0%	70.6%	69.5%	71.1%	71.4%	71.5%	
1. 違法有害情報リスク														
	1a.	違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	76.0%	75.9%	73.9%	75.1%	75.0%	73.2%
	1b.	有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	69.1%	67.1%	67.2%	68.4%	69.5%	71.5%
2. 不適正利用リスク														
	2a.	不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、 SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	79.3%	78.3%	77.5%	77.6%	77.7%	75.8%
	2b.	不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	61.9%	60.2%	57.9%	60.3%	59.6%	63.1%
	2c.	不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	81.5%	79.6%	79.9%	79.7%	80.7%	79.2%
3. プライバシー・セキュリティリスク														
	3a.	プライバシーリスク	プライバシー、個人情報 の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	66.2%	64.7%	63.4%	66.2%	67.0%	67.4%
	3b.	セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	69.9%	68.5%	66.8%	70.2%	70.6%	70.2%

(2) アンケート結果

- ①ペアレンタルコントロールの状況
- ②学校における取組の状況
- ③トラブル遭遇時の対応
- ④生成AIの利用状況

①ペアレンタルコントロールの状況 -家庭でのルールの有無・内容-

※ペアレンタルコントロールとは、保護者が青少年のライフサイクルを見通して、その発達段階に応じてインターネット利用を適切に管理することをいい、フィルタリング等の技術的措置及び家庭内ルール作り等の非技術的措置で構成。

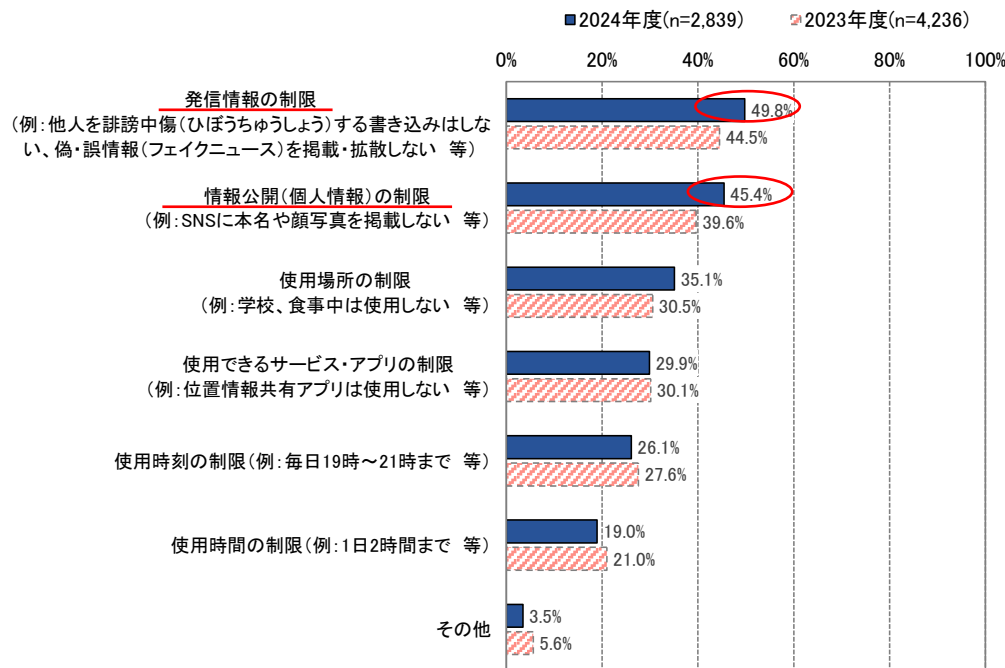
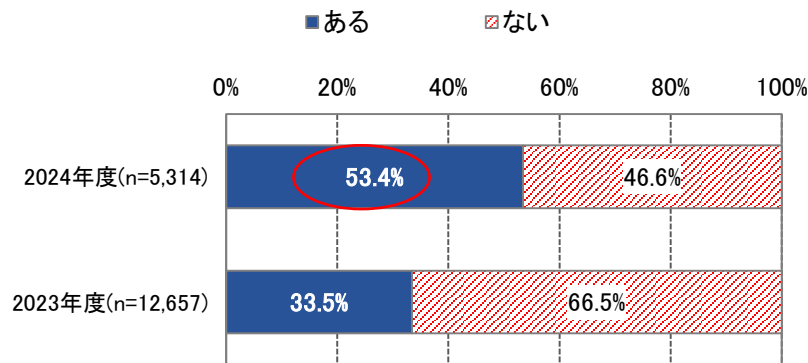
- SNS等のインターネット利用に関する**家庭でのルールの有無**について、**全体の53.4%が「ある」と回答**。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、**誹謗中傷の書き込みをしない等の「発信情報の制限」(49.8%)が最も多く**、次いで**「情報公開(個人情報)の制限」(45.4%)が多い**。【図表2】

SNS等のインターネット利用について、家庭ではどのようなルールがありますか。

【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)



※ 2023年度は、「家庭でのルールの有無」を聞いた後に別設問にて「家庭でのルールの内容」を聞いた。2024年度は、「家庭でのルールの内容」に関する質問の中に「特にない」という選択肢を設け、「特にない」と回答した者以外を「ある」と集計し(図表1)、図表1で「ある」と回答した者を母数として家庭でのルールの内容を集計(図表2)。

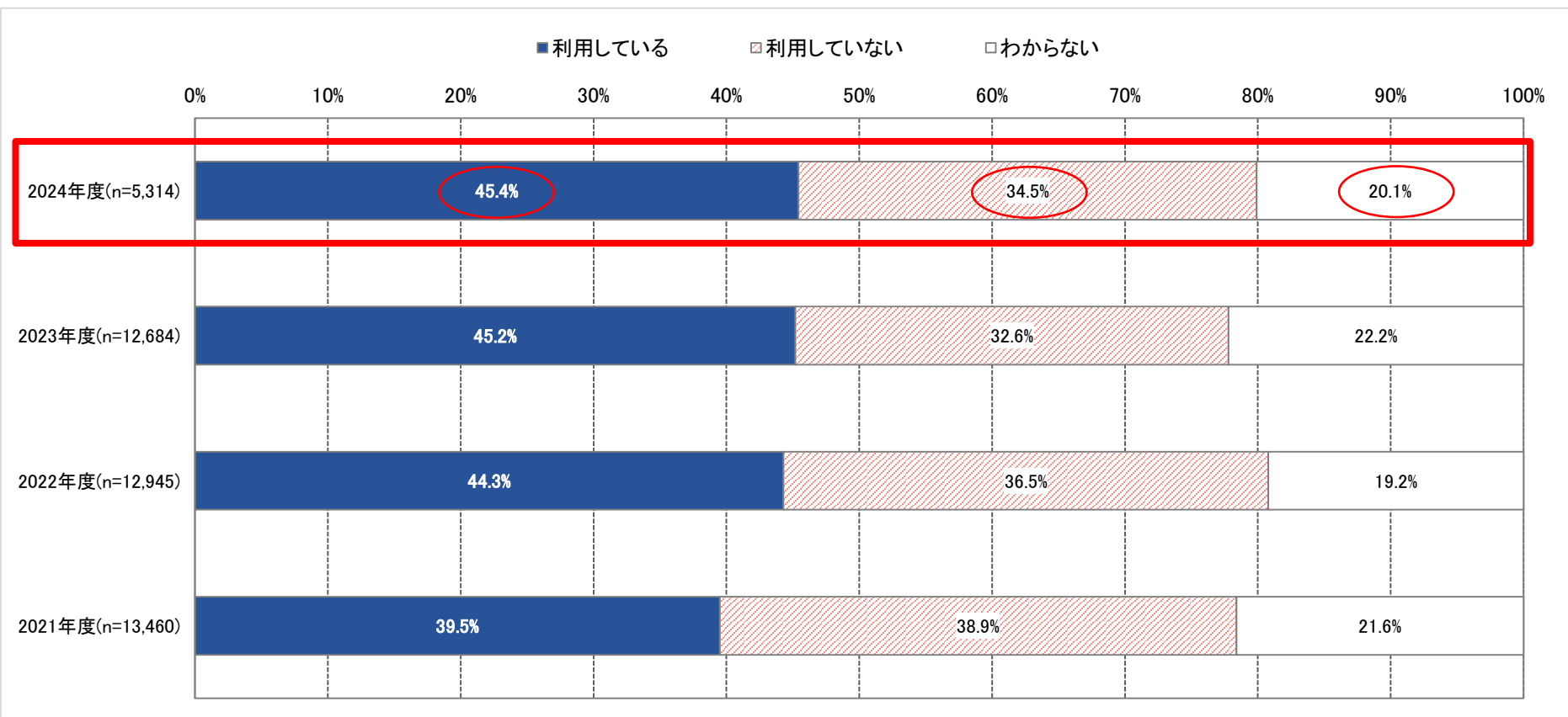
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

①ペアレンタルコントロールの状況 -フィルタリング利用状況-

- フィルタリング利用状況については、全体の45.4%が「利用している」と回答。
- その一方で、34.5%が「利用していない」、20.1%が「わからない」と回答。

【図表】フィルタリングの利用状況（択一回答）

あなたはフィルタリングサービス（あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOSの機能やサービスも含みます。）または機能制限を利用していますか（最も利用している機器についてお答えください）。



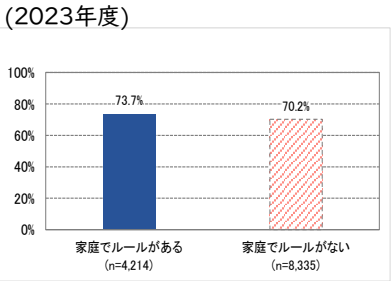
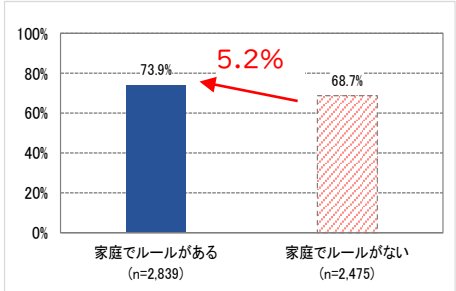
※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある

※2021年度の集計においては、「以前利用していたが、今は利用していない」「利用していないが、今後利用しようと思う」を「利用していない」に合算し、算出

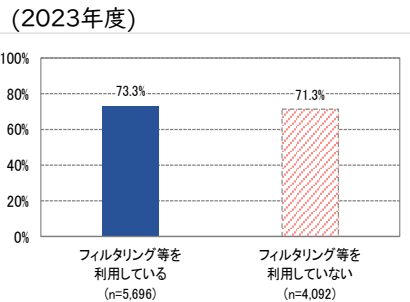
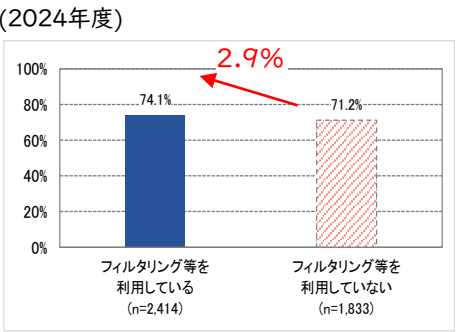
①ペアレンタルコントロールの状況 -家庭でのルール・フィルタリングとILAS結果-

- 家庭でのルールがある者の正答率は、家庭でのルールがない者に比べ、**5.2%高い**。【図表1】
- フィルタリング等を利用している者の正答率は、利用していない者に比べ、**2.9%高い**。【図表2】
- 家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と、正答率との関係については、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合、74.9%と最も高く、**家庭でのルールとフィルタリング利用がいずれも「なし」の場合に比べて5.2%高い**。【図表3】

【図表1】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率
(2024年度)



【図表2】フィルタリング利用の有無と正答率
(母数:フィルタリングの利用状況について「わからない」と回答した者以外)



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率
(母数:フィルタリングの利用状況について「わからない」と回答した者以外)

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	74.9% (n=1,736) (前年度: 74.9%)	71.9% (n=678) (前年度: 71.8%)
	×なし	73.8% (n=654) (前年度: 73.3%)	69.7% (n=1,179) (前年度: 70.8%)

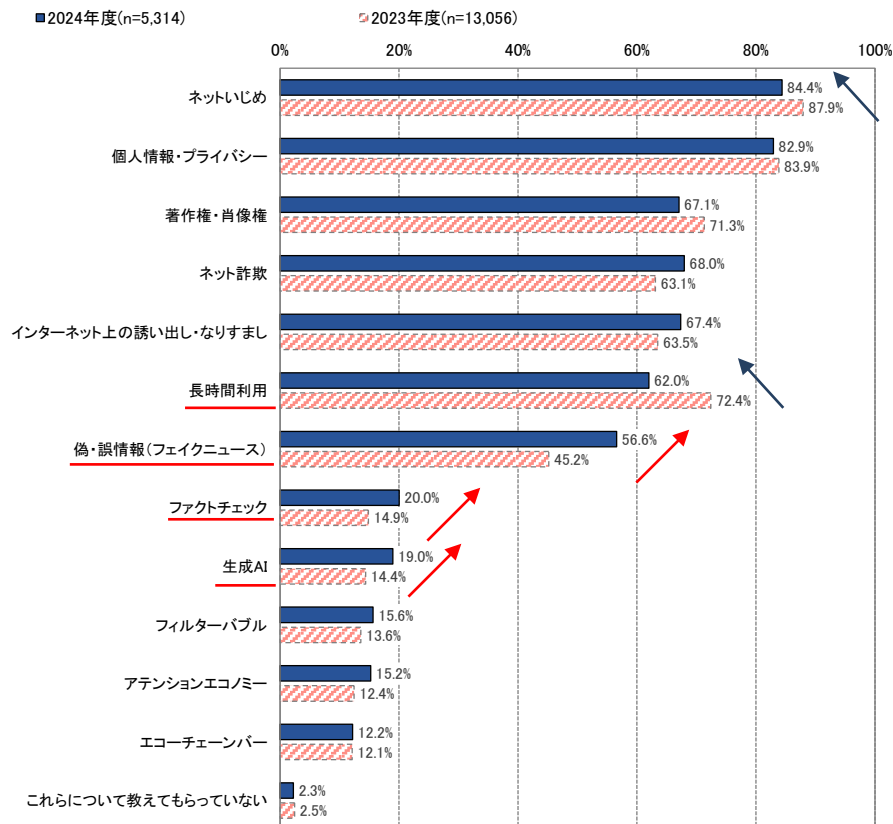
全体の正答率は71.5% (n=5,314)

②学校における取組の状況 -学校での学習内容及び学習の有無とILAS結果-

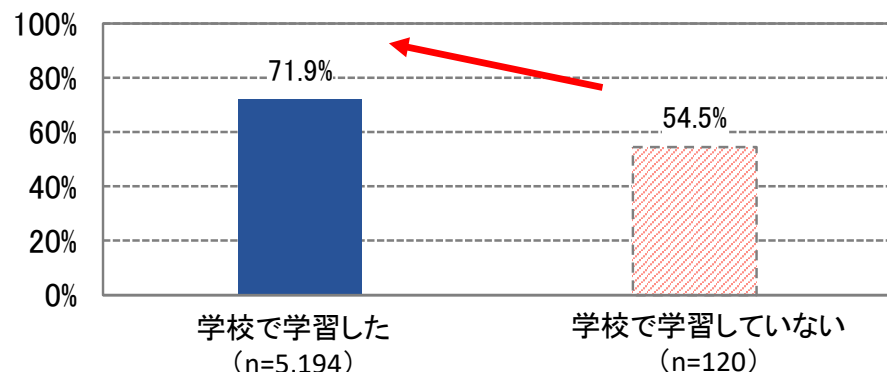
- 学校で教わったインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策について、本年度は前年度に比べ「偽・誤情報（フェイクニュース）」、「ファクトチェック」、「生成AI」の回答率が増加、「長時間利用」や「ネットいじめ」の回答率は低い。
- 偽・誤情報等の流通・拡散の構造的な要因とも指摘されている「フィルターバブル」(15.6%)、「アテンションエコノミー」(15.2%)、「エコーチェンバー」(12.2%)についても学校で教えられたことがあると回答。【図表1】
- 学校でインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策を教わった者の方が、教えてもらっていない者より、ILASテストの正答率が高い。【図表2】

インターネットを利用するにあたっての注意点、または対応策について、次の中であなたが学校で教えてもらったことはありますか。

【図表1】学校で教えられた内容(複数回答)



【図表2】学校での学習の有無(択一回答)と正答率



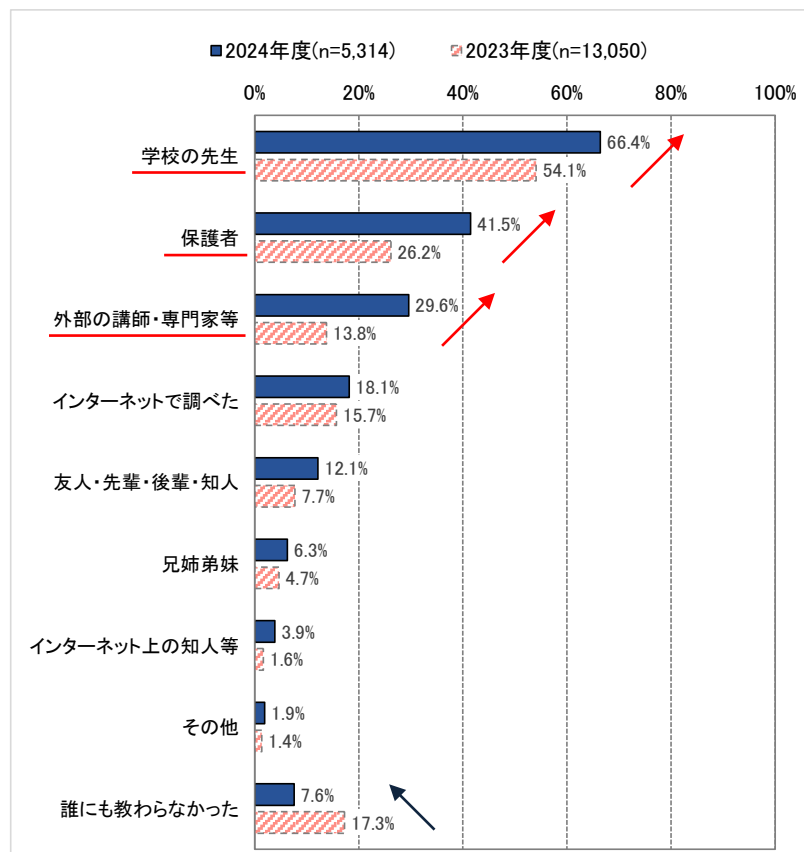
※「これらについて教えてもらっていない」と回答した者を「学習がない者」、「これらについて教えてもらっていない」と回答した者以外を「学習がある者」としている。

②学校における取組の状況 -偽・誤情報、生成AIに関する学習の有無-

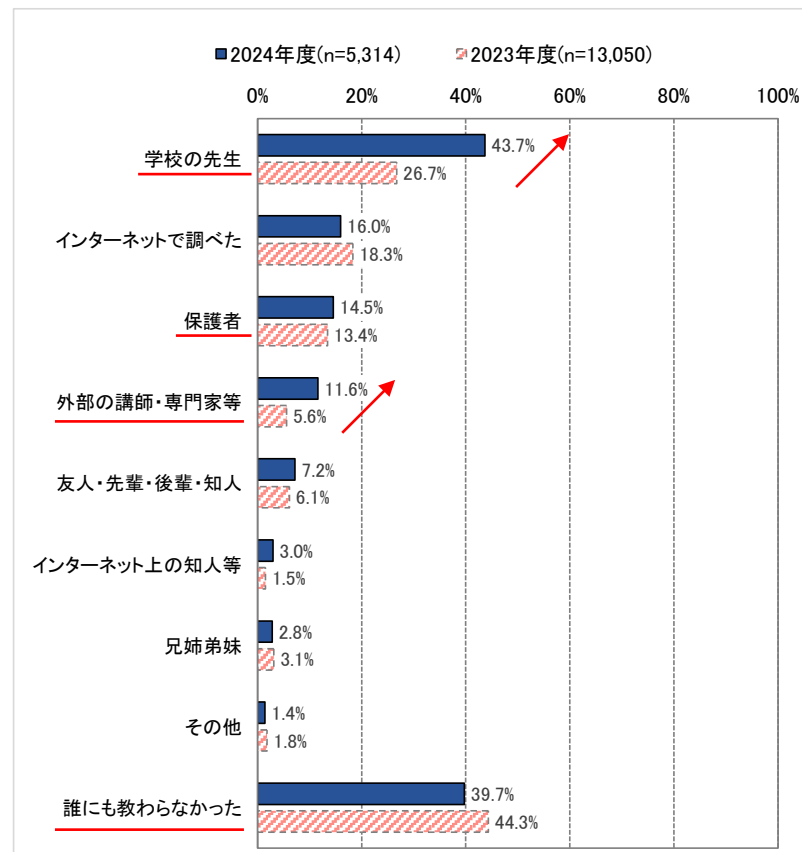
- 偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点等を教わった相手について、前年度に比べ「**学校の先生**」、「**保護者**」、「**外部の講師・専門家等**」の回答率が高い。【図表1】
- 生成AIに関する危険や注意点等を教わった相手について、前年度に比べ「**学校の先生**」、「**外部の講師・専門家等**」の回答率が増加したが、依然として、「**誰にも教わらなかった**」という回答が多い（39.7%）。【図表2】

今までに、インターネット上の偽・誤情報（フェイクニュース）/生成AI（文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」等も含みます。）について、危険や注意点等について、誰かに教わったことはありますか。

【図表1】偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点、対応策について教えてもらったことがある人（複数回答）



【図表2】生成AIに関する危険や注意点について教えてもらったことがある人（複数回答）

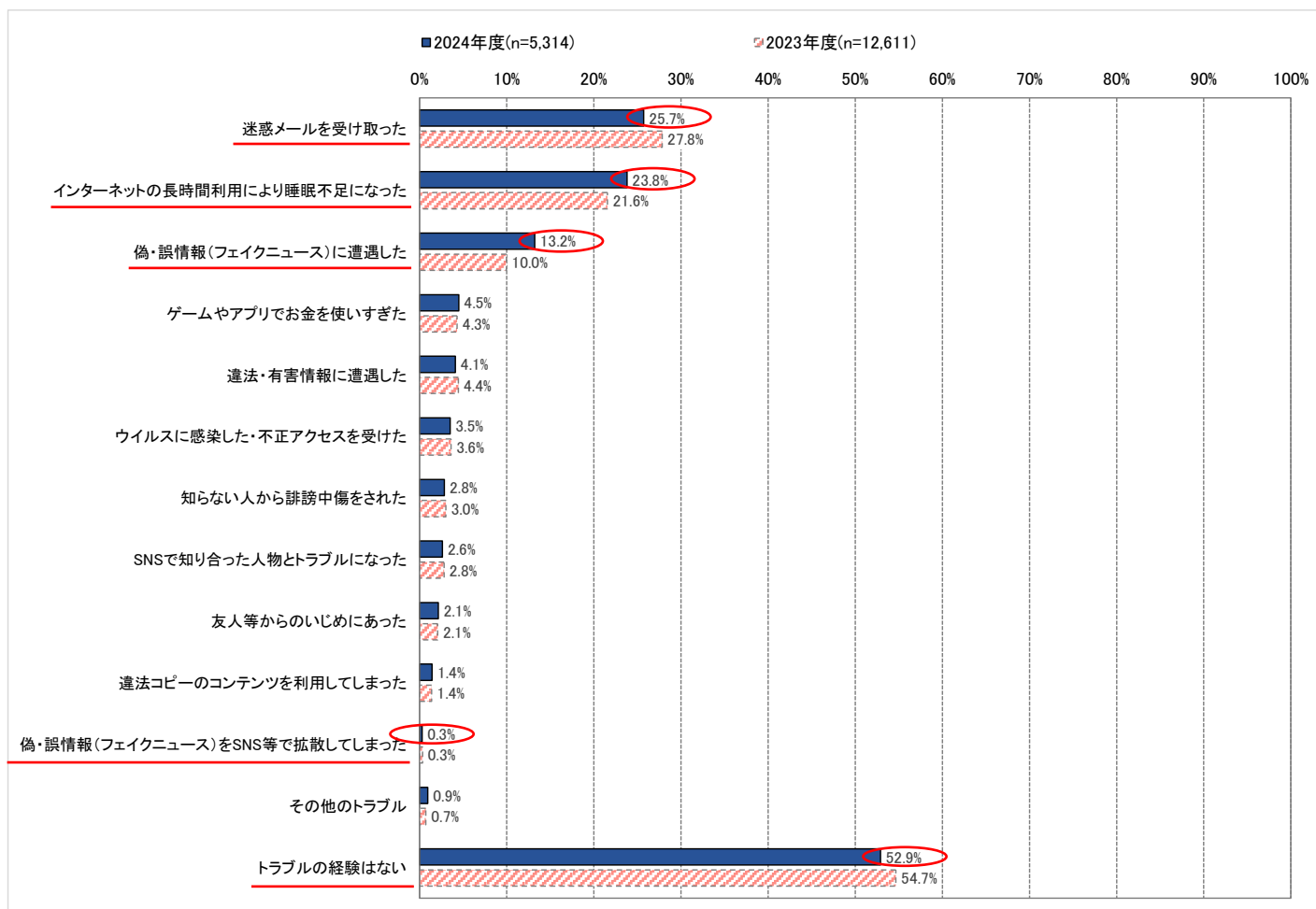


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇状況-

- 全体の**52.9%**が、インターネット利用に際して、「**トラブルの経験はない**」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「**迷惑メールを受け取った**」(25.7%)との回答が最も多く、「**インターネットの長時間利用により睡眠不足になった**」(23.8%)、「**偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した**」(13.2%)との回答が続く。
- 「**偽・誤情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった**」との回答は、昨年同様**0.3%**である。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

インターネットの利用に際して、次のようなトラブルの経験はありますか。

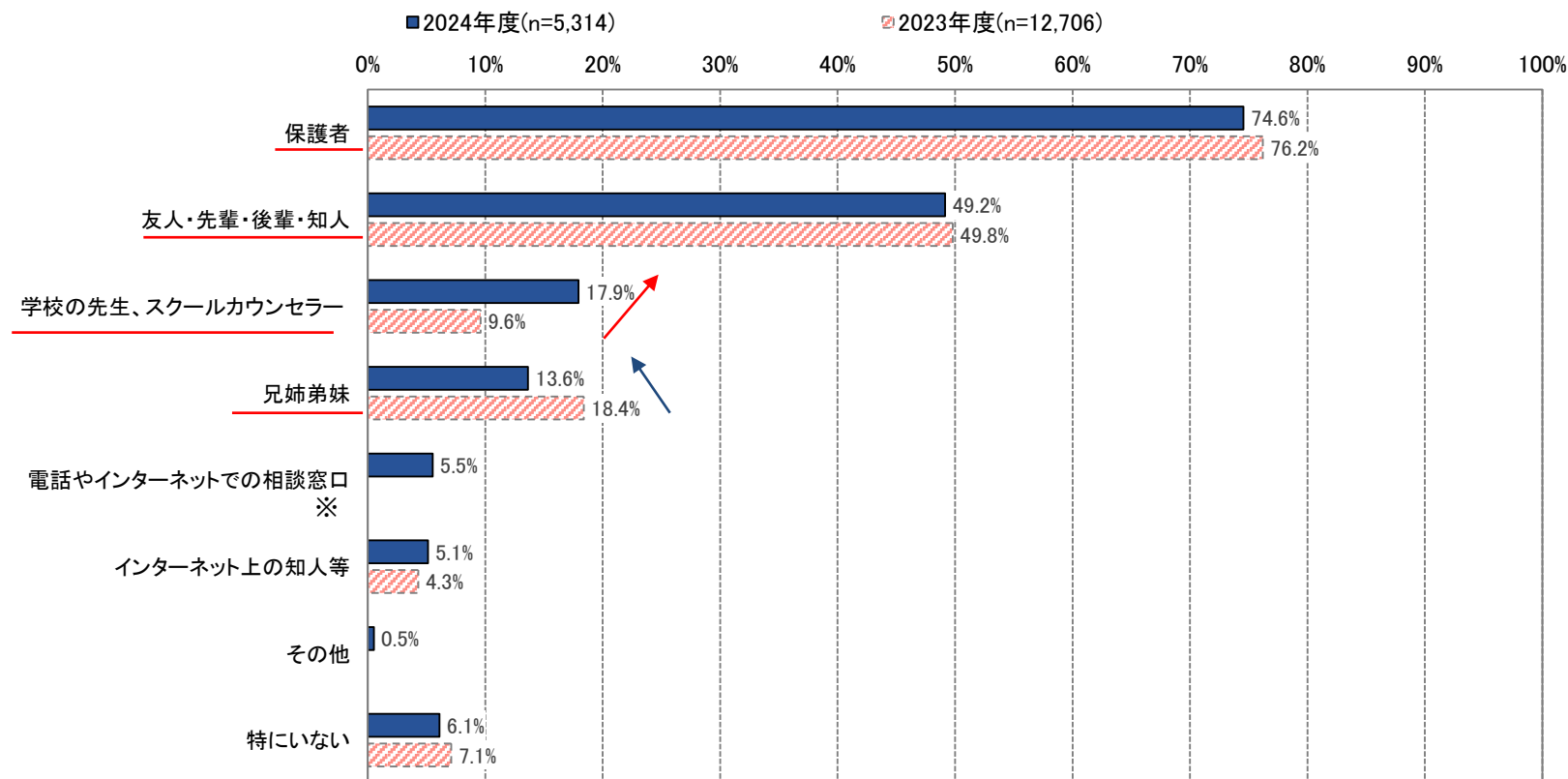


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇時に相談する相手-

- **トラブル遭遇時に相談する相手**については、**全体の74.6%が「保護者」と回答**。次いで「友人・先輩・後輩・知人」(49.2%)、「学校の先生、スクールカウンセラー」(17.9%)との回答が多い。
- 前年度に比べ「学校の先生、スクールカウンセラー」に相談するとの回答率が増加し、「兄弟姉妹」に相談するとの回答率が低下した。

【図表】トラブル遭遇時に相談する相手(複数回答)

インターネット上のトラブルがあった場合、あなたが相談する人は誰ですか。



※2024年度調査では設問内容を「電話やインターネットでの相談窓口」に変更。(2023年度の調査では、「公的な相談機関」。)

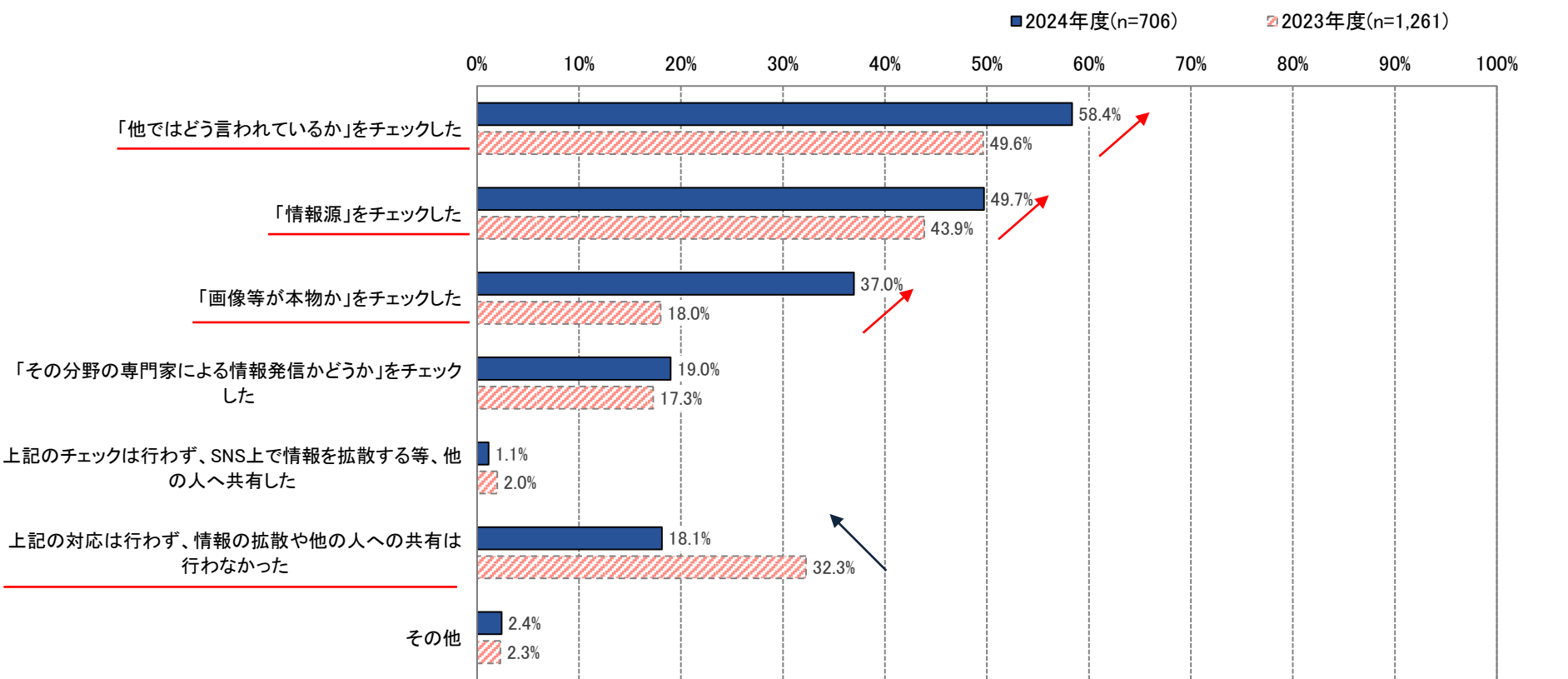
③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報(フェイクニュース)遭遇時の対応-

- 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応については、**全体の半数以上の58.4%が、「他ではどう言われているか」をチェックした**と回答。
- 「対応は行わず、情報の拡散や情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」との回答が18.1%。
- 前年度と比べ、「他ではどう言われているか」をチェックした」、「『情報源』をチェックした」、「『画像等が本物か』をチェックした」との回答率が増加し、偽・誤情報(フェイクニュース)遭遇時の適切な対応をとれる者が増加。

【図表】偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応(複数回答)(昨年度との経年比較)

(母数:トラブル遭遇経験について、「偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した」「偽・誤情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ)

インターネット上で偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際に、あなたはどのような対応をしましたか。

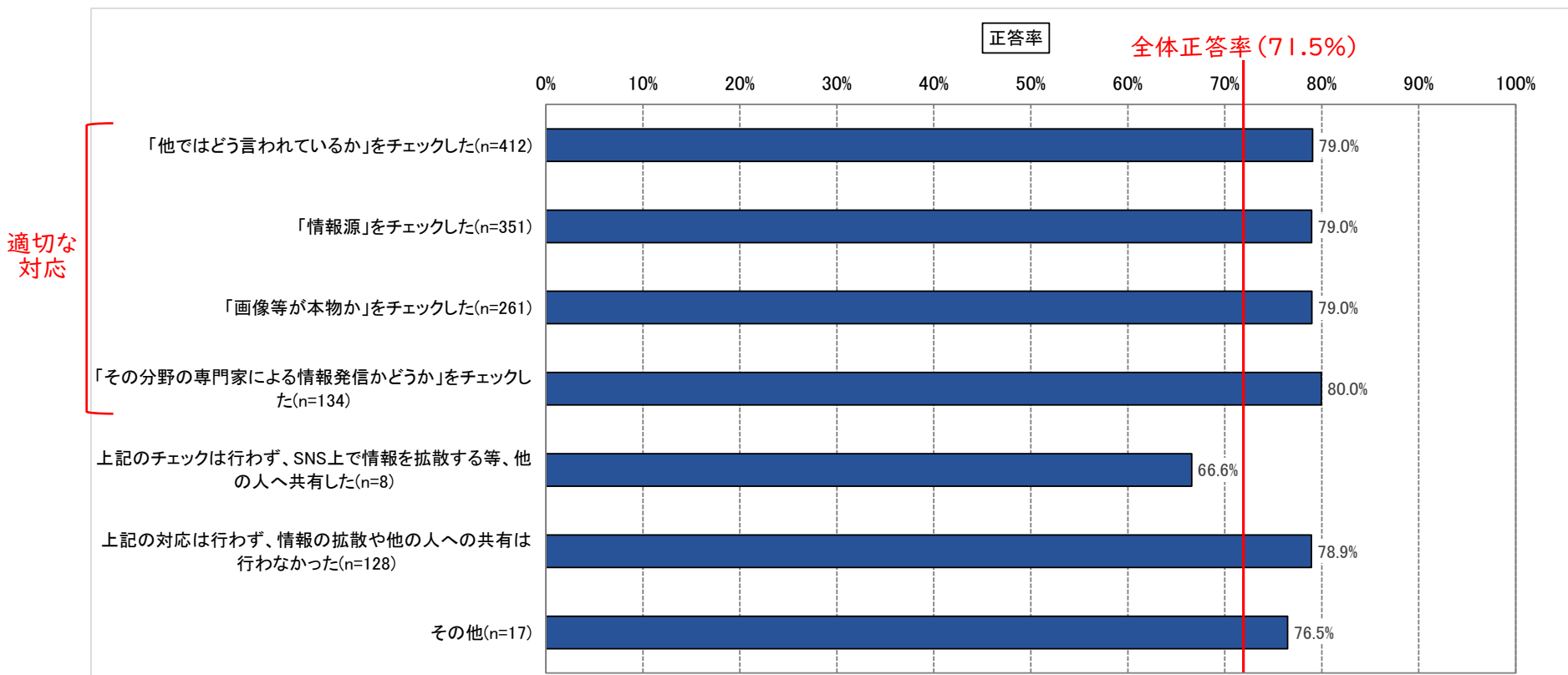


③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報遭遇時の対応とILAS結果-

- 偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際に適切な対応をとっている者の正答率は全体正答率を超え、「SNS上で情報を拡散する等、他の人へ共有した」などの適切でない対応をとっている者の正答率は、全体正答率より低い傾向がみられた。
- 一方で、適切な対応をとっている者と「対応は行わず、情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」者の正答率は、ほぼ同程度となった。

【図表】偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際の対応（複数回答）と正答率

（母数：トラブル遭遇経験について、「偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した」「偽・誤情報（フェイクニュース）をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ）

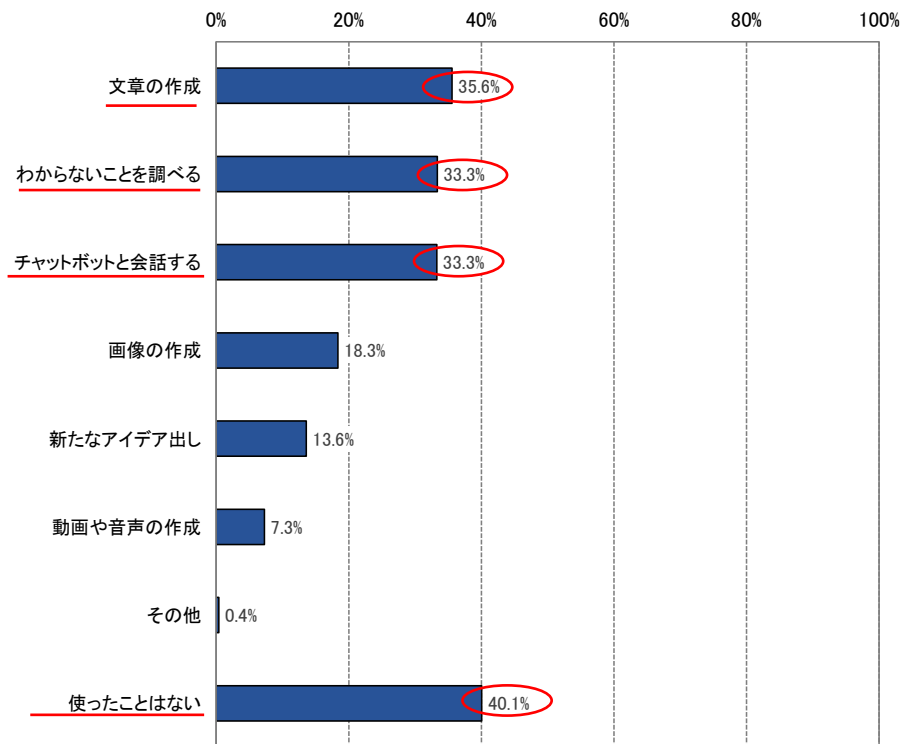


④生成AIの利用状況

- 生成AIについては、全体の**40.1%**が「**使ったことはない**」と回答。【図表1】
- 使ったことがある生成AIとしては、「**文章の作成**」(35.6%)が最も多く、「**わからないことを調べる**」(33.3%)や「**チャットボットと会話する**」(33.3%)が続く。【図表1】
- 生成AIのイメージとしては、「**学習効率や効果があがる**」(33.6%)との回答が最も多く、「**新たな発見がたくさんできる**」(30.1%)、「**人の仕事を奪う**」(24.6%)が続く。【図表2】

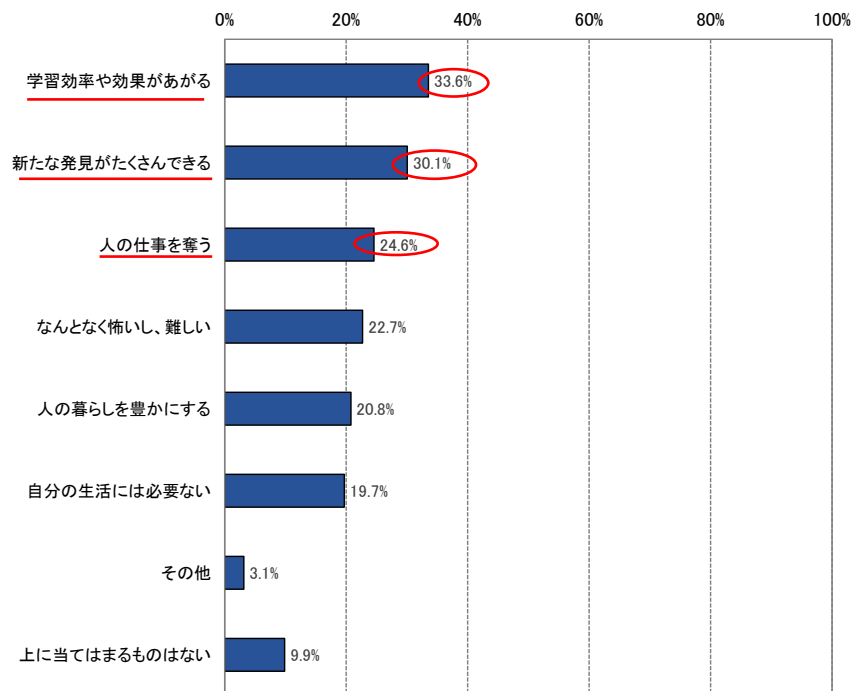
【図表1】使ったことがある生成AI(複数回答)(n=5,314)

あなたが生成AI(文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」等も含みます。)を使ったことがあるものは何ですか。



【図表2】生成AIのイメージ(複数回答)(n=5,314)

あなたの生成AIのイメージについてお答えください。



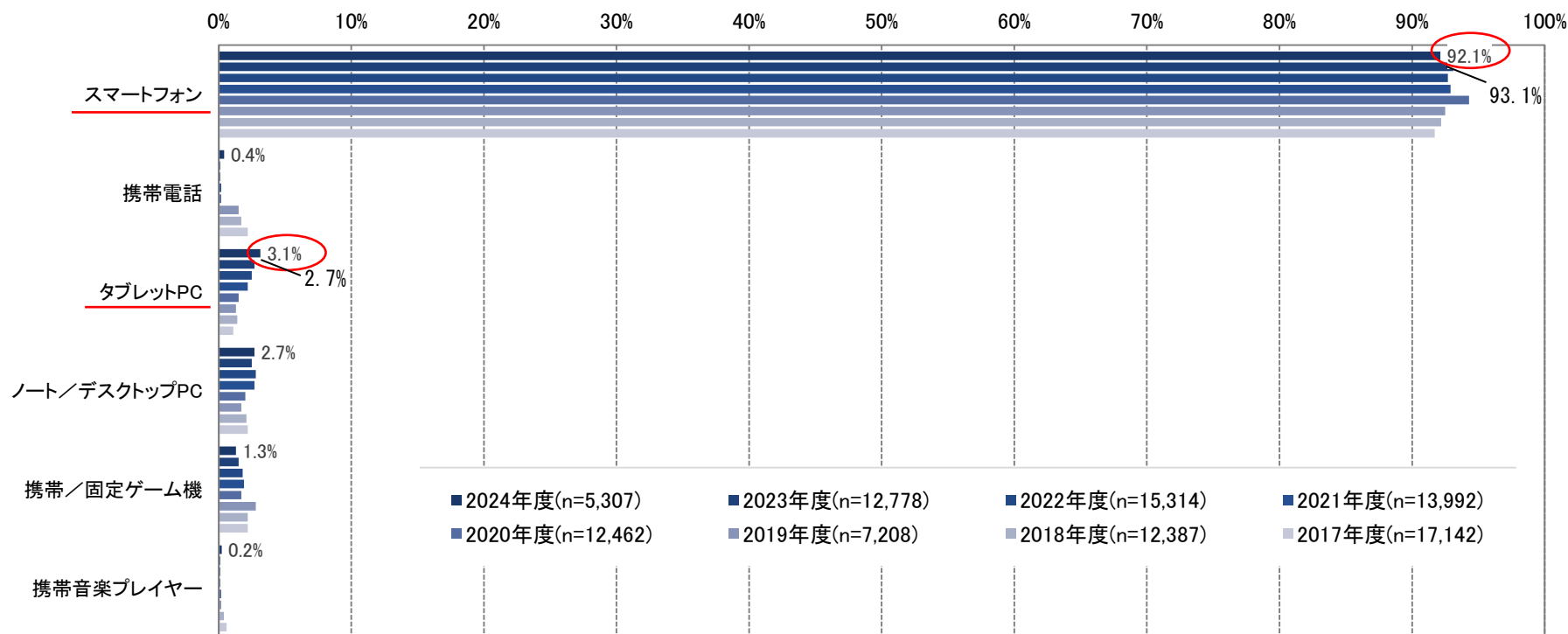
3. 参考

(参考) インターネット接続機器ごとの保有割合

- 全体の92.1%が、最もよく利用する機器について「スマートフォン」と回答(昨年度より減少)。
- 全体の3.1%が、最もよく利用する機器について「タブレットPC」と回答し、増加傾向が見られた。

【図表】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器(択一回答)

あなたが最もよく利用するインターネット接続機器を教えてください。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

(参考) 平日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は「2～3時間未満」との回答が最も多く(25.9%)、次いで「3～4時間未満」が20.7%と多い。また、52.6%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表】
- 平日のスマートフォン利用時間別にILASテストの総合正答率の違いの有無をみると、利用時間が長いほど、正答率が低い傾向が見られた。【参考】

あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

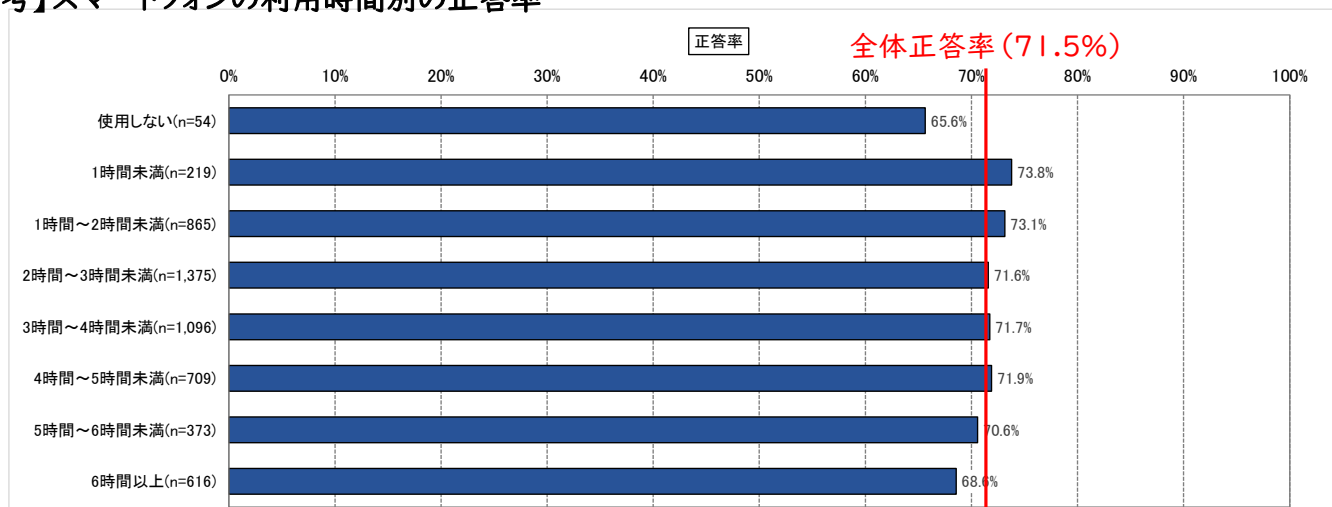
【図表】平日1日当たりの平均利用時間(択一回答) (n=5,307)

計52.6%

	使用しない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	1.0%	4.1%	16.3%	25.9%	20.7%	13.4%	7.0%	11.6%
携帯電話	97.2%	0.9%	0.6%	0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.4%
タブレットPC	31.8%	37.7%	17.5%	6.7%	3.0%	1.3%	0.8%	1.1%
ノートPC/デスクトップPC	65.9%	17.8%	8.4%	3.7%	1.7%	1.0%	0.5%	1.0%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	57.5%	15.2%	12.6%	6.0%	4.1%	1.7%	1.0%	1.8%
携帯音楽プレイヤー	72.2%	14.0%	7.8%	3.4%	1.4%	0.5%	0.2%	0.5%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率



(参考) 休日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は「6時間以上」との回答が最も多い(29.7%)。【図表1】
- スマートフォンの平均利用時間が3時間以上利用者が8割近く(76.9%)を占め、平日と比較すると全体の約24%増加している。【図表2】

あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

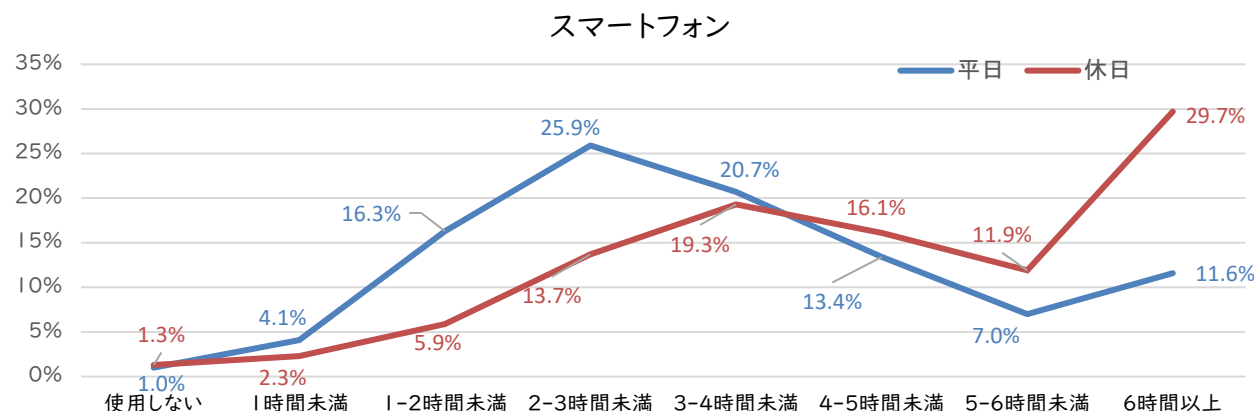
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)(n=5,307)

	使用しない	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6時間以上
スマートフォン	1.3%	2.3%	5.9%	13.7%	19.3%	16.1%	11.9%	29.7%
携帯電話	97.3%	0.7%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.1%	0.5%
タブレットPC	55.5%	22.8%	10.6%	5.6%	2.3%	1.3%	0.4%	1.5%
ノートPC/デスクトップPC	76.6%	9.6%	4.8%	3.2%	2.0%	0.9%	0.6%	2.2%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	56.2%	9.7%	12.1%	7.7%	5.6%	2.8%	2.1%	3.7%
携帯音楽プレイヤー	74.6%	11.0%	7.3%	3.3%	1.8%	0.8%	0.3%	0.9%

計76.9%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】平日1日当たりと休日1日当たりの平均利用時間の比較



(参考)「上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」特集ページ

- 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」の特集ページにて、ILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～(総務省)

特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

上手にネットと付き合おう!
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小

総務省

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 **特集ページ** 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

青少年がインターネットを安全に安心して活用するための
リテラシー指標等に係る調査
— ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) —

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。



青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、売上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2 不適正利用リスク		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を図り利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

(参考) 啓発コンテンツ

- 青少年のスマートフォン(インターネット)の安全・安心な利用に関して参考となる啓発コンテンツを、次のとおりご紹介します。

➤ 「5つの分野のICTリテラシーを学ぼう ～つくろう!守ろう!安心できる情報社会～

青少年、保護者を対象に、これからのデジタル社会において必要となる

ICTリテラシーを身につけるための教材を掲載

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/Ictliteracy_for_yps/

➤ ネット&SNS よりよくつかって 未来をつくろう ～ICT活用リテラシー向上プロジェクト～

ICTリテラシーに関する取組を実施する事業者等と協力し、事業者等の取組をまとめたWebページ

<https://www.ict-mirai.jp/>



➤ 家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ

保護者を対象としたデジタル・シティズンシップ推進に資する啓発コンテンツ

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/parent-teacher/digital_citizenship/

➤ インターネットトラブル事例集

子育てや教育の現場での保護者や教職員の活用にあ資するため、インターネット利用に係るトラブル事例の予防法等をまとめた教材

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/



(参考) ICTリテラシー向上に関するプロジェクト(デジタル ポジティブ アクション)

総務省では、国民一人一人のリテラシー向上に向け、官民の幅広い関係者による取組を推進するため、令和7年1月より、**官民連携プロジェクト「デジタル ポジティブ アクション」を始動。**

1. プロジェクトの推進体制

- プラットフォーム事業者、通信事業者、IT関連企業、関連団体と、総務省が連携して推進。
ICTリテラシー向上のための取組を継続的に実施し、社会的機運の醸成を図る。

<ロゴ・スローガン>

つくろう! 守ろう! 安心できる情報社会



<参加企業・団体> ※参加する事業者・団体の順次拡大を目指す。



「DIGITAL POSITIVE ACTION」
のWebサイト
<https://www.soumu.go.jp/dpa/>

2. 取組の方向性

世代に応じた多様な普及啓発

- 多様な関係者の取組を集約した総合的なWEBサイトの開設
- 多様な関係者によるセミナー開催と、普及啓発教材の作成・活用
- 幅広い広報活動

SNS・デジタルサービスにおけるサービス設計上の工夫

画面上での注意・警告等、事業者による自主的なサービス設計上の工夫

信頼性の高い情報にかかる表示上の工夫

信頼性の高い情報が偽・誤情報に埋もれないよう、事業者による自主的な表示上の工夫